

ようかねんぶつ 八日念仏行事



9月上旬の日曜日（旧暦8月8日に近い日曜日）、田村市船引町北鹿又の南集落で、住民の無病息災を祈願する行事が「八日念仏」です。

参加者は集落内の公民館に集まり、十三仏の掛け軸の前に祭壇を設け、太鼓を中心に車座に座り、「南無阿弥陀仏」と唱和しながら、大数珠を時計回りにまわします。それが終わると、近くの虚空蔵陀羅尼供養塔が建つ場所へ移動し、再び「南無阿弥陀仏」と唱和しながら、大数珠を時計回りにまわします。

江戸時代に地域内で疫病が流行した際、念仏祈禱をしたところ疫病がなくなったことに由来し、以来、集落住民の無病息災を願っておこなわれています。

市内各地で念仏祈禱（数珠まわし）の風習は残っていますが、南集落のそれは、野外にある虚空蔵陀羅尼供養塔（安永9(1780)年銘）を囲んでおこなうという昔のままの姿をとどめています。



①八日念仏で使う道具。約 22mの大数珠、鉦、文政 7(1824)年銘の太鼓です。



②公民館内の正面に十三仏の掛け軸、その前に祭壇を設けます。



③参加者は太鼓を中心に、車座に座り、「南無阿弥陀仏」と唱和しながら、約 20 分間、時計回りに大数珠をまわします。



④公民館での数珠回しが終わると、近くの虚空蔵陀羅尼供養塔が建つ場所に移動します。



⑤供養塔を中心として、再び参加者は「南無阿弥陀仏」と唱和しながら、約 20 分間、時計回りに大数珠をまわします。